

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。



ア ミン

大 聯 禱

輔 祭 われら安和にして主に祈らん。



主 あわれ めよ

輔 祭 上より降る安和と、われらが霊の救いのために主に祈らん。



主 あわれ めよ

(以下同じ)

輔 祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、および衆人の合一のために主に祈らん。

輔 祭 この聖堂、および信と慎みと神を畏るゝ心とをもって此処に来たる者のために主に祈らん。

輔 祭 教会を司どるわれらの府主教^{グニール}~~フェオドシヤ~~・主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスによる輔祭職、悉くの教衆、及び衆人のために主に祈らん。

輔 祭 わが国の天皇及び国を司どるものゝために主に祈らん。

輔 祭 この都邑とおよその都邑と地方、および信をもって、この中におるものゝために主に祈らん。

輔 祭 気候順和、五穀豊穰、天下泰平のために主に祈らん。

輔 祭 航海するもの、旅行するもの、病を患うるもの、艱難に遭うもの、俘となりしもの、および彼らの救いのために主に祈らん。

輔 祭 われら諸々の憂と、怒りと、危うきとを免かるゝがために主に祈らん。

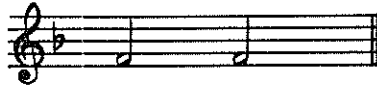
輔 祭 神や、爾の恩寵をもって、我らを佑け、救い、憐み、護れよ。

輔 祭 至聖、至潔にして至りて讃美たるわれらの光榮の女宰、生神女永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、われら己の身、および互いに各々の身をもって、並びに悉くのわれらの生命をもって、ハリストス神に委託せん。



主 なん じ に

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。



ア ミン

第 一 ア ン ティ フ ォ ン



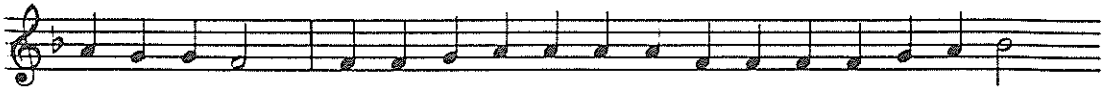
わ が た ま し い や 主 を ほ め あ げ よ、 主 や なん じ



は あ が め ほ め ら る、 わ が た ま し い や 主 を ほ



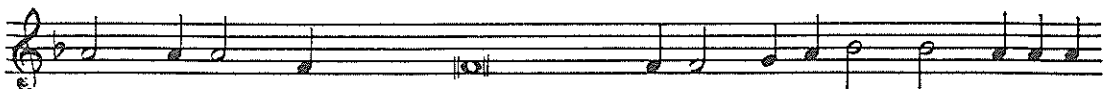
め あ げ よ、 わ が ち ゅ う し ん や そ の せ い な る 名 を ほ



め あ げ よ、 わ が た ま し い や 主 を ほ め あ げ よ、



か れ が こ と ご と く の 恩 を わ す る る な か れ、



か れ は、 なん じ が も ろ も ろ の 不 法 を ゆ る し、 なん じ が



もろもろのやまいをいやす、光えいはちちと
 子とせいしんにきす、いまもいつも世々
 にアミン、わがたましいや主をほめあげよ、わ
 がちゅうしんや、そのせいなる名をほめあげ
 よ、主やなんじはあがめほめらる

小 聯 禱

輔 祭 われら、また又、安和にして主に祈らん。



主 あわれ めよ

輔 祭 神よ、爾の恩寵をもってわれらを佑け、救い、憐み、護れよ。



主 あわれ めよ

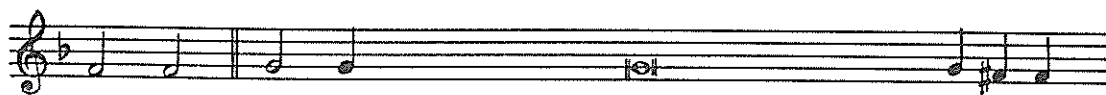
輔 祭 至聖、至潔にして至りて讃美たるわれらの光榮の女宰、生神女
 永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、われら己の身、および互
 いに各々の身をもって、並びに悉くのわれらの生命をもって、ハ
 リストス神に委託せん。



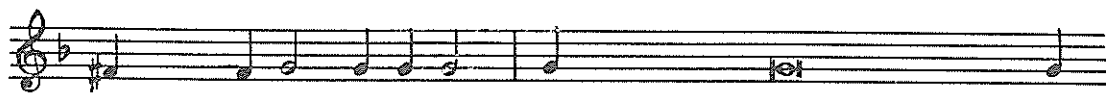
主 なん じ に

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。

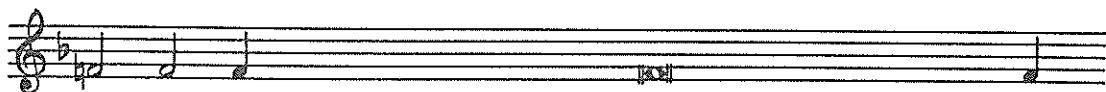
第 ニ ア ン ティ フ ォ ン



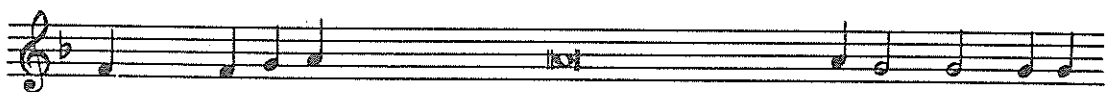
ア ミン 光 えいはちちと子とせいしんにきす、いまも



いつもよよにアミン、かみの独生の子ならびにこと



ばや、死せざるものにしてわれらをすくわんがため



あまんじてせいなる生神女永貞童女マリヤよりみをと り、かみ



の性をかえずしてひととなり十字架にくぎうた れ、死をもって



死をふみやぶりし ^ハ _リ ス ト か み や、せい三者のい っ と



して、ちちとせいしんとともにさんえいせらるるの



小 聯 禱

輔 祭 われら、また又、安和にして主に祈らん。神や、爾の恩寵をも
って、われらを助け、救い、憐み、護れよ。



輔 祭 至聖、至潔にして、至りて讃美たるわれらの光栄の女宰、生神
女、永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、われら己の身、およ
び互いに各々の身をもって、並びに悉くのわれらの生命をもって
ハリストス神に委託せん。



輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人と
の祈禱によりて、われらを憐み護れよ。



真 福 詞





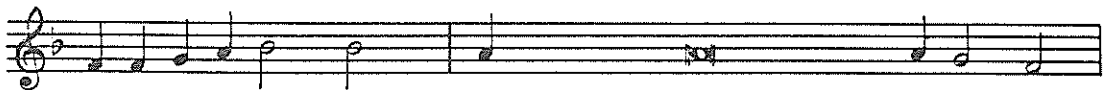
い な り、 か れ ら は な ぐ さ み を え ん と す れ ば な り、



お ん じ ゅ う な る も の は さ い わ い な り、 か れ ら は 地 を



つ が ん と す れ ば な り、 義 に う え か わ く も の は



さ い わ い な り、 か れ ら は あ く を え ん と す れ ば な り、



あ わ れ み あ る も の は、 さ い わ い な り か れ ら は



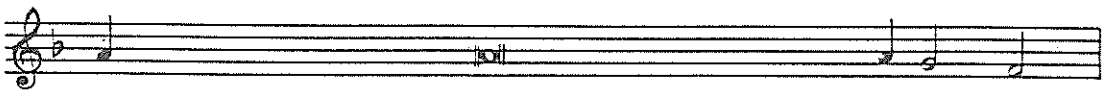
あ わ れ み を え ん と す れ ば な り、 こ こ ろ の き よ き



も の は さ い わ い な り、 か れ ら は か み を み ん と す れ ば



な り わ へ い を お こ の う も の は さ い わ い な り、



か れ ら は か み の 子 と 名 つ け ら れ ん と す れ ば な り、



義 の た め に き ん ち く せ ら る る も の は さ い わ い な り、



天ごくはかれらのものなればなり、ひとわがた



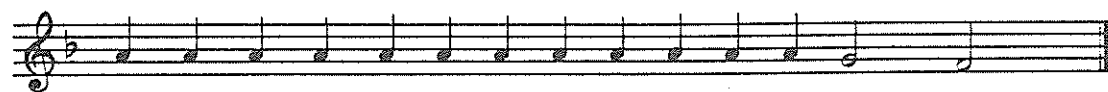
めになんじらをののしりきんちくし、なんじらのことを



いつわりてもろもろのあしきことばをいわんときなんじらさいわいなり、



よろこび、たのしめよ天には

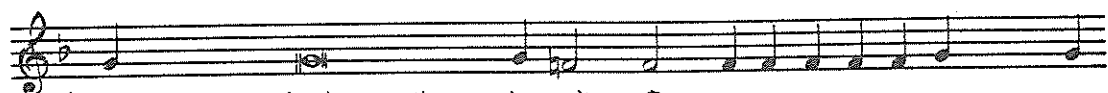


なんじらのむくいおおければなり、

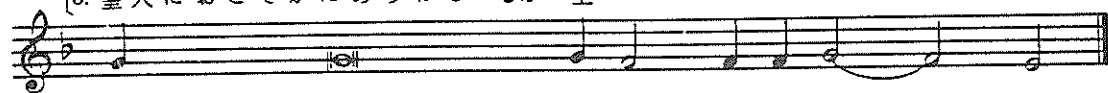
輔 祭 叡智。謹みて立て。



きたれハリストスのまえにふしおがまん、かみの子



1. 死よりふくかつせし主やなんじにアリ・ルイヤを
2. 生神女のきとうによつて
3. 聖人におごそかにあらわるるの主や

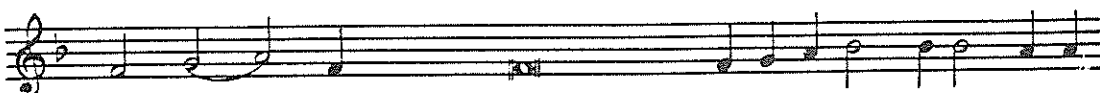


たてまつるわれらをすくいたまえ

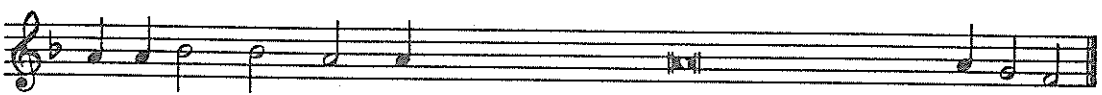
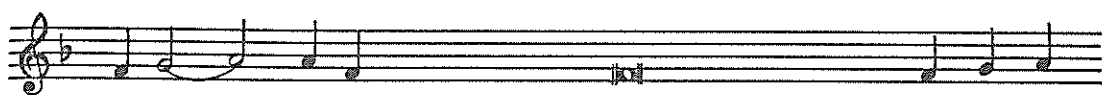
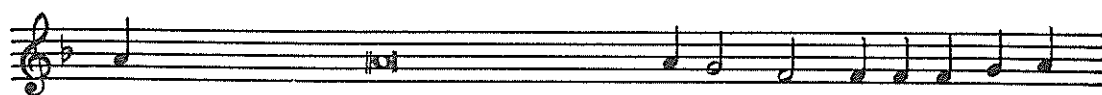
復活のトロパリ

第一調

ト
ロ
パ
リ
(1)



救世主やイウデヤのひとはかを封じて、へい



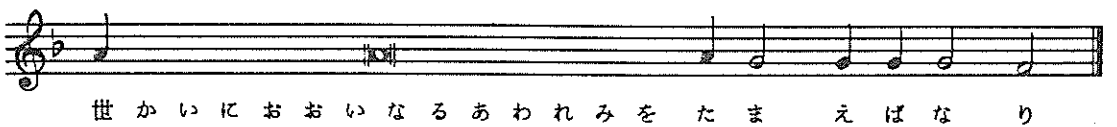
第 二 調





第 三 調

トロバリ
(3)



第 四 調

トロバリ
(4)





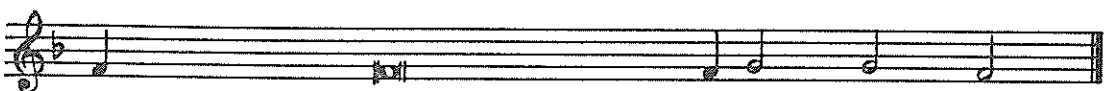
かみのつかいよりききうけ て、元祖よりのていざいを



ふる いすて 使徒にはこりて いえ り、死 はほろ



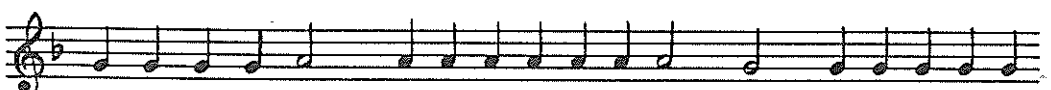
ほされ ハリスト かみはふくか つして、世かいにおおい



なる あわれみを たま え り

第 五 調

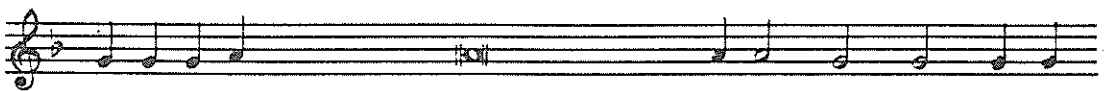
ト
ロ
バ
リ
(5)



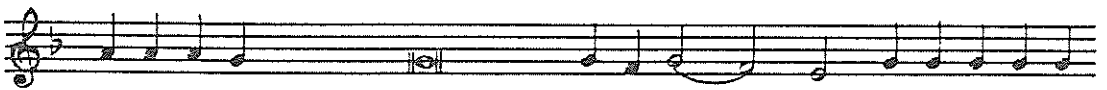
信 者 や ち ち と せ い し ん と と も に、 は じ め な き



こ と ば わ が す く い の た め に、 童 て い 女 よ



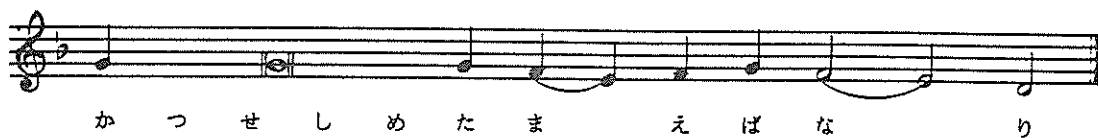
り う ま れ し も の を ほ め う と う て お が む べ し、 か れ あ



ま じ て そ の 身 に て 十 字 架 に の ほ り、 死 を し の び

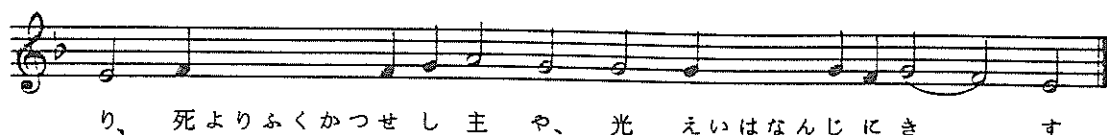
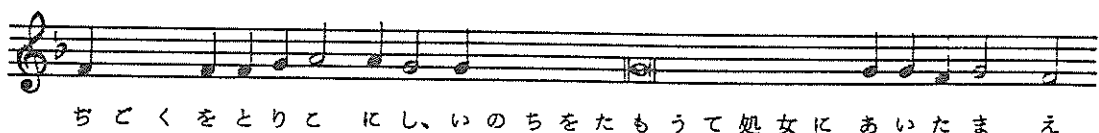
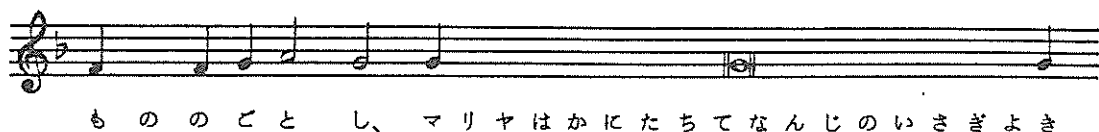


そ の 光 え い の ふ く か つ に て、 死 せ し も の を ふ く



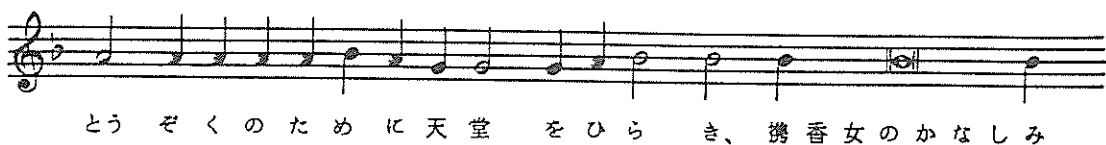
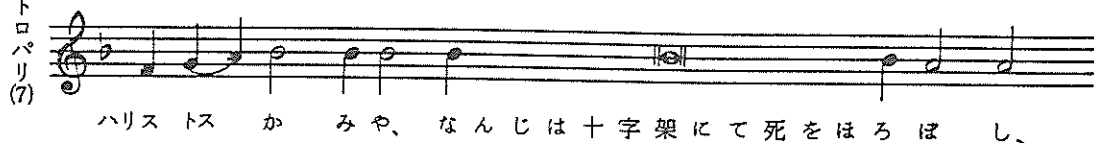
第 六 調

トロ
パリ



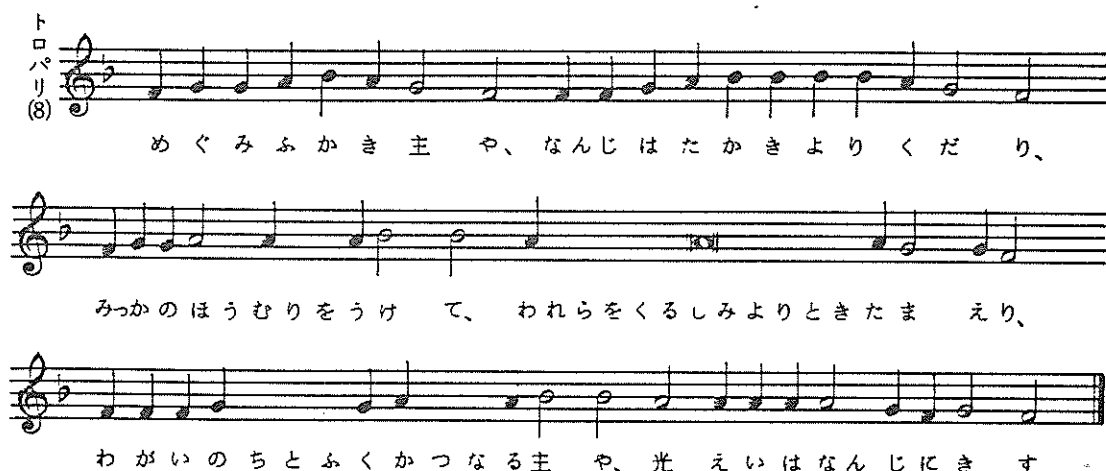
第 七 調

トロ
パリ
(7)

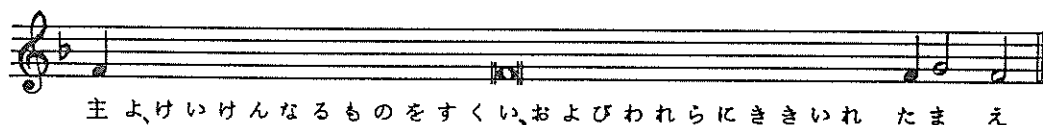




第 八 調



輔 祭 主や、敬虔なるものを救い、およびわれらに聴き給え。

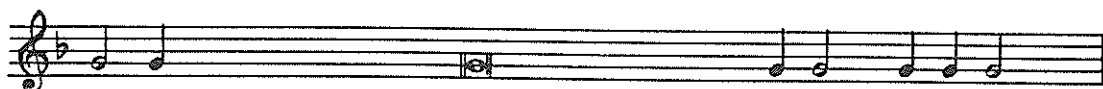


輔 祭 世々に。



三 度





光 えいはちとことせいしんにきすいまもいつも よよ に、アミン。



せいなる常生のものや、われらをあわれめよ せいなる



かみ、せいなるゆうきせいなる常生のものや、われらをあわれめよ

ポロキメン

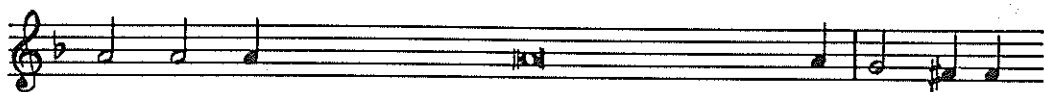
輔 祭 叡智。ポロキメン。（同じ場所で「聖使徒経」を捧持して）

第一 調

輔 祭	主よ、われら爾を恃むが如く』爾の憐みをわれらに垂れ給え。
詠 隊	主よ、われら爾を恃むが如く、爾の憐みをわれらに垂れ給え。
輔 祭	『句』 義人よ主のために悦べ、讃栄するは義者に適う。
詠 隊	主よ、われら爾を恃むが如く、爾の憐みをわれらに垂れ給え。
輔 祭	主よ、われら爾を恃むが如く。
詠 詠 隊	爾の憐みをわれらに垂れ給え。

（以下各調ともこの順序要領による）

ポロキメン
(1)



主 や、われらなんじをたのむがごとく、なんじの

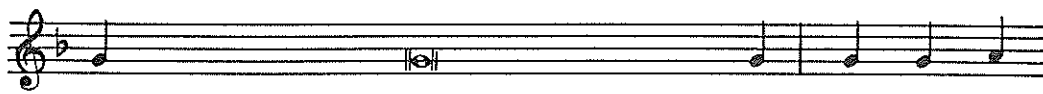


あわれみを、われらにたれたまえ

第二 調

輔 祭	主は、わが力わが歌なり』彼はわが救いとなれり。
詠 隊	『句』主は厳しくわれを罰したれど、われを死に渡さざりき。

ポロキメン
(2)



主はわがちからとわがうたなり、かれは



わがすくいとなれり

第三調

輔 祭 わが神に歌い歌えよ』わが王に歌い歌えよ。
詠 隊 『句』万民よ、手を打ち喜びの声をもって神に呼べ。

ポロキメン
(3)

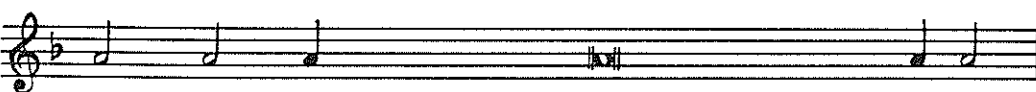


わがかみにうたいうた えよ、わが王にうたいうた えよ

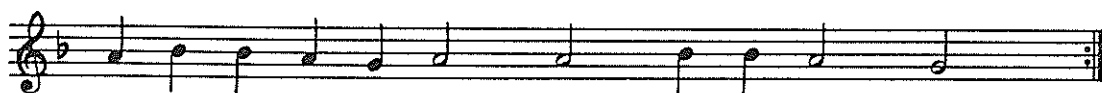
第四調

輔 祭 主よ、爾の仕業は何ぞ多き』みな智慧をもって作れり。
詠 隊 『句』わが霊よ、主を讃め揚げよ、主わが神よ、爾は至りて大いなり。

ポロキメン
(4)



主やなんじのしわざはなんぞ多きや、



みなちえをもつてつくれり

第五調

輔 祭 主や、爾はわれらを保ち、われらを護りて』この世より永遠に至らん。
詠 隊 『句』主よ、われらを救い給え、蓋し義人は絶えたり。

ポ
ロ
キ
メ
ン
(5)



主 や なん じ わ れ ら を た も ち わ れ ら を ま も り て、

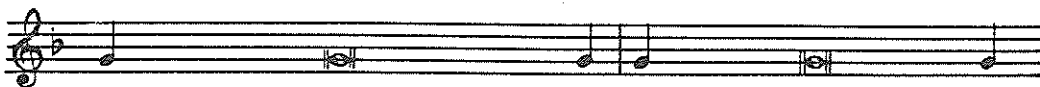


こ の よ よ り え い え ん に い た ら ん

第 六 調

輔 祭 主よ、爾の民を救い』爾の業に福を降し給え。
詠 隊 『句』主よ、われ爾に呼ぶ、われの堅めよ、わがために黙すな
かれ。

ポ
ロ
キ
メ
ン
(6)



主 や なん じ の た み を す く い、なん じ の 業 に ふ く を



く だ し た ま え

第 七 調

輔 祭 主は、その民に力を賜い』主は、その民に平安の福を降さん。
詠 隊 『句』神の諸子よ、主に献ぜよ、光栄と尊貴とを主に献ぜよ。

ポ
ロ
キ
メ
ン
(7)



主 は その た み に ち か ら を た ま い、主 は その た み



に へ い あ ん の ふ く を く だ さ ん

第 八 調

輔 祭 主爾らの神に』誓いをなして償えよ。
詠 隊 『句』神はイウデヤに知られ、その名はイズライリに大いなり。



輔 祭 叡智。聖使徒パウエルが 로마人(またはコリント人……等)に達する書の読み。

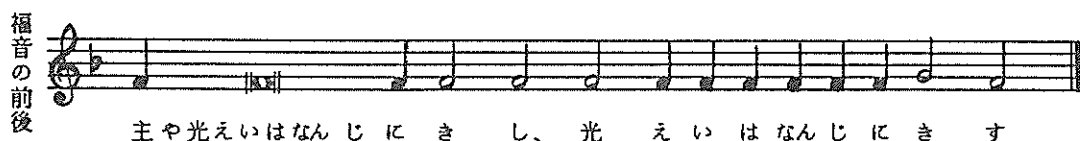
輔 祭 謹みて聴くべし。

輔 祭 〔聖使徒経〕本文の読み。(当該主日の章、節、目〔端〕による)



輔 祭 叡智。謹みて立て、聖福音経を聴くべし。

輔 祭 「……伝」による聖福音経の読み。



輔 祭 〔聖福音経〕本文の読み。(当該主日の章、節、目〔端〕による)
聖福音経を読むときは衆人に向って読んでもよいが祝福の言動をしてはならない。



重 聯 禱

輔 祭 われらみな霊を全うして言わん、われらの思いを全うして言わん。



輔 祭 主全能者、わが列祖の神や、爾に祈る、聴き入れて憐めよ。



輔 祭 神や、爾の大いなる憐みによりてわれらを憐めよ、爾に祈る、聴き入れて憐めよ。



(以下同じ)

輔 祭 また、わが国の天皇および国を司どる者のために主に祈る。

輔 祭 また、教会を司どる尊貴なるわれらの府主教²¹ ~~フニキドシイ~~・主教セラフィムおよびハリストスに於ける悉くのわれらの兄弟のために祈る。

輔 祭 また、われらの兄弟、諸司祭、諸修道司祭、およびハリストスに於けるわれらの衆兄弟のために祈る。

輔 祭 また、常に記憶せらるゝこの聖堂の建立者、および既に眠りし悉くの父祖兄弟、この処と諸方とに葬られたる正教の者のために祈る。

輔 祭 また、この至尊なる聖堂に物を奉り、善業を行い、これに勞し、これに歌い、および此処に立ちて、爾の大いにして豊なる憐みを仰ぎ望む者のために祈る。

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。



死 者 の 聯 禱

輔 祭 神や、爾の大いなる憐みによりて、われらを憐めよ、爾に祈る聴き入れて憐めよ。



(以下同じ)

輔 祭 また、眠りし神の僕(婢)〔聖名某〕の霊の安息のため、および彼(ら)に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんがために祈る。

輔 祭 主、神が彼(ら)の霊を諸義人の安息するところに入れ賜わんことを祈る。

輔 祭 彼(ら)に神の憐みと天国と諸罪の赦しとを賜わんことを、ハリストスわが死せざる王および神に願う。 * 1



輔 祭 主に祈らん。 * 2

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。 * 3

増 聯 禱

輔 祭 われら、主の前にわが祈りを増し加えん。 ①



輔 祭 この聖堂、および信と謹みと神を畏るゝ心とをもって、此處に来たるものゝために主に祈らん。 ② (以下同じ)

輔 祭 われら、諸々の憂と、怒りと、危うきとを免かるゝがために主に祈らん。

輔 祭 神や、爾の恩寵をもって、われらを佑け、救い、憐み、護れよ
輔 祭 この日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む。



(以下同じ)

輔 祭 平安の神使、正しき教導師、わが霊体の守護者を賜わんことを主に求む。

輔 祭 われらの罪と過ちとを宥め、赦さんことを主に求む。

輔 祭 われらの霊に善にして益あること、および世界に平安を賜わんことを主に求む。

輔 祭 われらの生命の余日を平安と、痛悔とをもって終らんことを主に求む。

輔 祭 われらの生命の終りがハリストスに適い、病なく、耻なく、平安なること、およびハリストスの畏るべき審判に於て宜しき答えをなすを賜わんことを求む。

輔 祭 至聖、至潔にして至りて讃美たるわれらの光榮の女宰、生神女
永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、われら己の身、および互
いに各々の身をもって、並びに悉くのわれらの生命をもってハリ
ストス神に委託せん。



主 なん じ に

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との
祈禱によりてわれらを憐み給え。

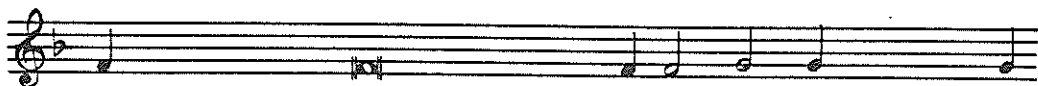


ア ミン

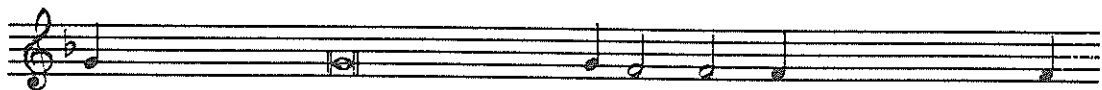
輔 祭 門、門、謹しみて聴くべし。

信

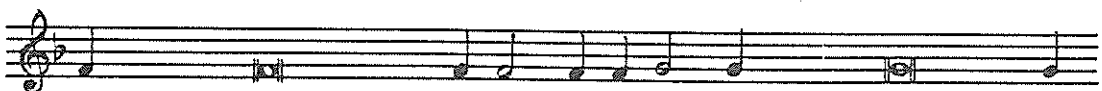
經



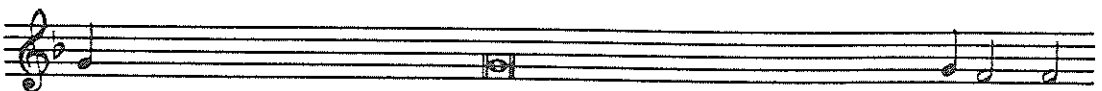
われ信ずひとつのかみちち全能者、天と地見ゆる



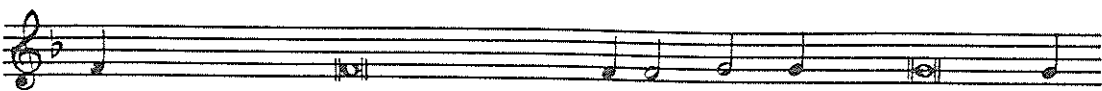
と見えざるばんぶつをつくりし主を、また信ずひとつの主



イイススハリストスかみのどくせいの子、よろずよのさきにちちより



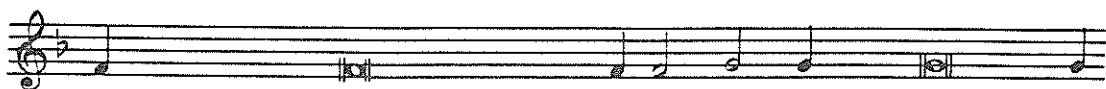
うまれひかりよりのひかりまことのかみよりのまことのかみ、



うまれしものにてつくられしにあらず、ちちといつたいに



してばんぶつかれにつくら れ われらひとびとのためまた



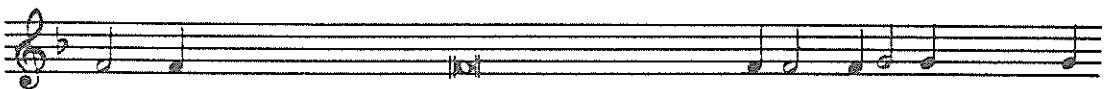
われらのすくいのために天よりくだ り、 せいしんおよび童貞



女マリヤより身をととりひととな り、 われらのためにポン テイ



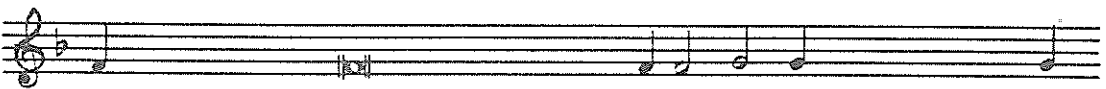
ピラトのとき十字架にくぎうた れ、 くるしみをうけほうむら



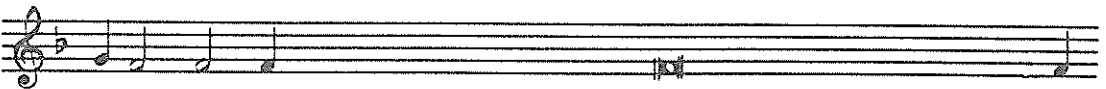
れ、 だい三じつにせいしよにかのうてふくか っし天にのほり



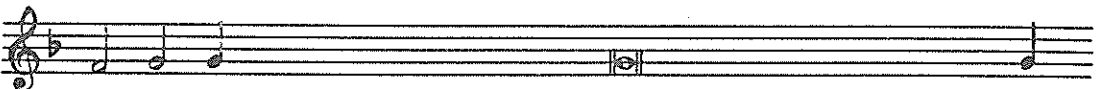
ちちのみぎにざ し、 光 えいをあらわしていけるものと死せ



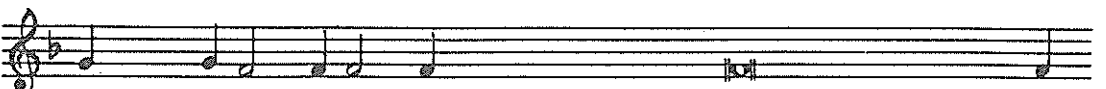
しものをしんばんするためにまたきた り、 そのくにおわりな



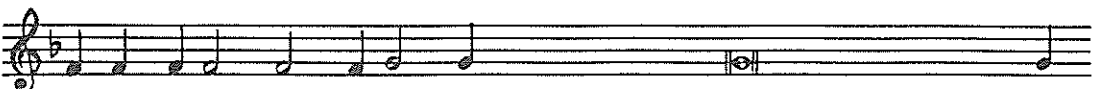
からんを また信ずせいしん主いのちをほどこすものちちより



い で、 ちちおよび子とともにおがまれほめられ予言者をもって



かつていい しを、 また信ずひとつのせいなるおおやけなる



使徒の教 か いを、 われみとむひとつの洗礼もってつみの



ゆるしをうるを、われのぞむ死者のふくか　　つ

ならびにらいせいのいのちをア　　ミン

増　　聯　　禱

輔　祭　われら諸聖人を記憶して、また又安和にして主に祈らん。



主　あ　わ　れ　め　よ

輔　祭　われら、諸々の憂と、怒りと、危うきとを免かるゝがために主に祈らん。



主　あ　わ　れ　め　よ

(以下同じ)

輔　祭　神や、爾の恩寵をもって、われらを佑け、救い、憐み、護れよ。
輔　祭　この日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む。



主　た　ま　え　よ

(以下同じ)

輔　祭　平安の神使、正しき教導師、わが霊体の守護者を賜わんことを主に求む。

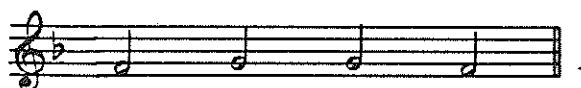
輔　祭　われらの罪と過ちとを宥め赦さんことを主に求む。

輔 祭 われらの霊に善にして益あること、および世界に平安を賜わんことを主に求む。

輔 祭 われらの生命の余日を平安と痛悔とをもって終らんことを主に求む。

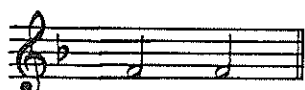
輔 祭 われらの生命の終りが、ハリストシアニンに適い、病なく、耻なく、平安なること、およびハリストスの畏るべき審判に於て宜しき答えをなすを賜わんことを求む。

輔 祭 信の同一と、聖神の体合とを求めて、われら己の身、および互いに各々の身をもって、並びに悉くのわれらの生命をもって、ハリストス神に委託せん。



主 なん じ に

輔 祭 主、イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人との祈禱によりて、われらを憐み給え。



ア ミ ン

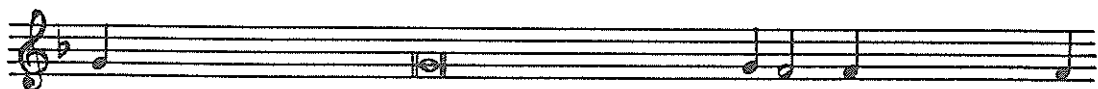
天 主 経 (主の祈り)



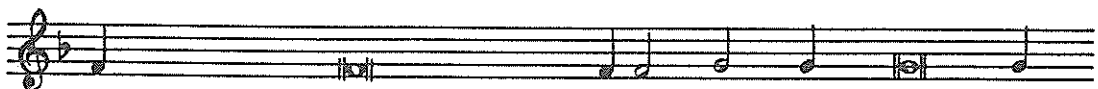
天にいますわれらのちちや、ねがわくはなんじの名は



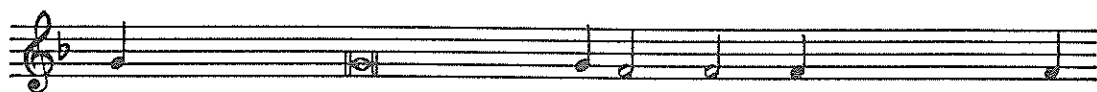
せいとせられなんじのくにはきたり、なんじのむねは



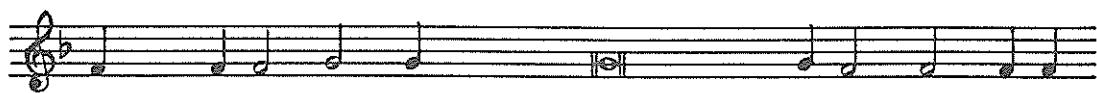
天におこなわるるがごとく地にもおこなわれん、わがにちようの



かてをこんにちわれらにあたえたまえ、われらにおいめ



あるものをわれらゆるすがごとく、われらのおいめを

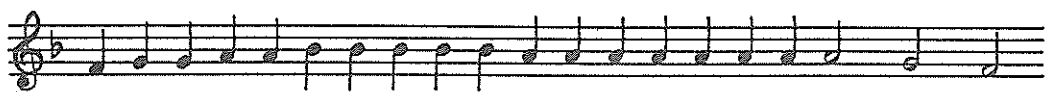


ゆるしたまえ、われらをいざないにみちびかず、なお



われらをきようあくよりすくいたまえ

輔 祭 至聖なる生神女や、われらのために神に祈り給え。



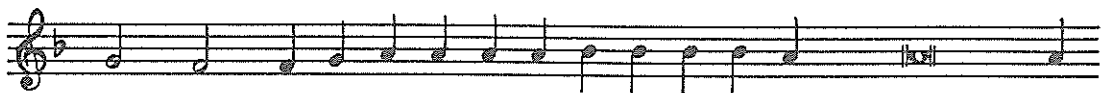
つねにさいわいにしてまったくきずなき生神女、



わがかみのははなるなんじをさいわいなりととのうるはまこ



とにあたれり、ヘルビムよりとうとくセラヒムにならびなくさ

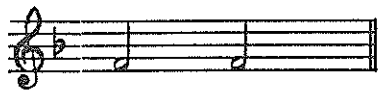


かえ、みさおをやぶらずしてかみことばをう



みし、じつの生神女たる、なんじをあがめほむ

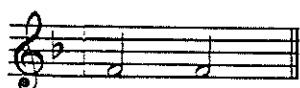
輔 祭 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に。



ア ミン

輔 祭 主、イイス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と諸聖人と

の祈禱によりて、われらを憐み給え。

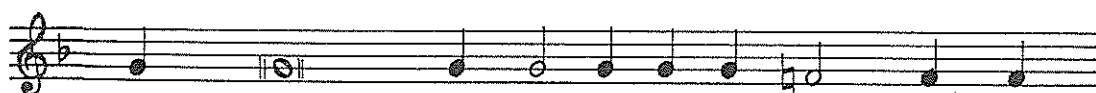


ア ミン

日本の大主教聖ニコライのトロパリ



使徒とひとしく 同座なるもの忠実



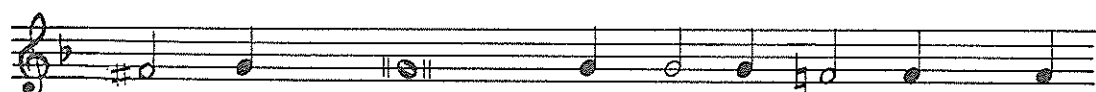
にして神智なる ハリス トスのえき者 聖な



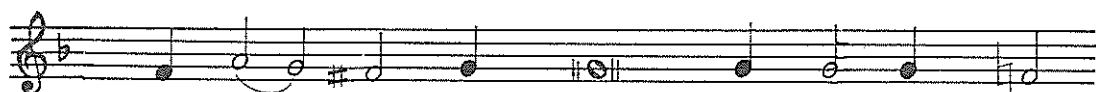
るしに選ばれ たるふえ ハリス トスの愛に満ち



たるうつ わ、わがくにの光 照



者 西使徒主教聖ニコライよ 爾の牧群



のた め および全世界のた め に



いのちを保つ 聖三者に祈りた ま え

萬 壽 詞



輔祭職または祈禱の代表者、祈りを終り、頭を深く垂れ、三回十字を画きアナロイを離れ、南門より至聖所に入り、宝座に向い三回伏拝しステハリを脱ぎ、折りたゝみ、東に向い十字を画き、ステハリ背部の十字架に接吻し格納してから、北門より敬虔な態度で至聖所を出る。

1986年5月10日 印刷・発行

発行所 日本ハリストス正教会教団
東日本主教教区宗務局
仙台市中央3丁目4番20号

TEL 0222-25-2744
☎ 980

印刷所 正 教 社
宮城県栗原市栗駒町岩ヶ崎上小路

124-3
TEL 0228-45-5651
☎ 989-53